

序文[‡]

北海道大学 低温科学研究所

原 登志彦^{*}

生態学の研究分野における光合成関連の研究について、4名の方にご自身の研究も含めた解説記事を執筆していただいたのが今回の特集である。まず、原口昭氏には湿地帯の植物の光合成に関し「ミズゴケ類の光合成速度の環境応答とその生態的意義」を、田畑あずさ氏には環境ストレスと樹木の個葉レベルでの光合成と樹木個体レベルでの応答について「土壤水分条件がダケカンバの形態、フェノロジーと光合成機能に及ぼす影響」を、戸田求氏には植生と土壤も含めた陸域生態系の林分、地域、グローバル・スケールでの炭素収支モデリングに関し「大気—植生相互作用モデルによる陸域生態系の炭素収支研究」を、串田圭司氏には陸域生態系の地域やグローバル・スケールでの炭素収支に関するリモートセンシングを用いた研究について「陸域生態系の炭素収支のリモートセンシング」を執筆していただいた。この解説特集により、異なる植生やレベル、スケールで光合成の研究がどのように行われ生態学の研究に結びついているのかをご理解いただければ幸いである。

[‡] 解説特集「光合成研究 —生態学からのアプローチ—」

^{*} 連絡先 E-mail: t-hara@pop.lowtem.hokudai.ac.jp